目次

2022年度 第21期 事業報告
この1年 …… p2
ラオスでのプロジェクト
Ⅰ. 本に出会い、親しむ（読書推進活動）…… p3
Ⅱ. 本をつくる（出版プロジェクト）…… p5
Ⅲ. もっと学ぶことができるように（奨学金）… p6
日本での活動 …… p6
組織の運営 …… p7
2022年度 第21期 会計報告 …… p8
2023年度 第22期 事業計画・予算 …… p9

★ 中等学校の図書館整備・役割拡充事業 8校
● 学校図書室（HakArn）整備新規開設 3校
★★ 奨学金事業対象校 11校

# 「ラオスのこども」とは？

## はじまり

1982年、ベトナム戦争後の長引く混乱と停滞の中、東京在住のラオス人と日本の友人とが、「ラオスの子どもたちも日本の子どもたちと同じように絵本を楽しんでほしい」と幼稚園のバザーなどで集めた絵本をラオスに送りました。これが「ラオスのこども」の活動の始まりです。

## 足どり・活動の柱

本も書店も図書館もほとんどなく、読書をする人も少ないラオスでは、多くの先生にとって、絵本は初めて出会うものでした。1990年代に入り、会はラオス語の絵本出版を開始。あわせて、子どもと本とをつなぐ先生のトレーニングなど読書の普及推進に力を注ぎました。また、学校では音楽・図工・体育や部活動が行われていないことから、そうした活動ができる児童館のような「子どもセンター」を各地で開設支援しました。

現在は、未だ教育環境の整備がおくれている中等学校（中学校 高等学校をあわせた7年制）で、行政機関と連携しながら図書室整備、授業での図書利用にも取り組んでいます。

## めざすもの 子どもは未来をつかみたい

「ラオスのこども」の組織の理念は、公正で平和な社会づくりに貢献することを目的として、子どもたちが自らの力を伸ばし、人生を主体的に選択できるよう、日本とラオスの人々が協働しながら、読書に親しむ環境をつくることです。

## これまでの取り組み、成果

皆さまのご支援の結果、今年度は、ラオス語図書4種類12,000冊を現地で出版し、6か所で新規の学校図書室を開設することができました。

今年度末までの累計ではラオス語図書 239種類952,855冊（図書203/紙芝居20/教科書類6/ニュースレター10）を出版し、ラオスの小中高校10,641校（小学校8,757校、中等学校1,836校 ラオス教育スポーツ省統計2021）のうち、356か所で図書室を開設し、2,732校に図書セットを配付。約3000校でフォローアップをおこなってきました。「子どもセンター」は、これまでに全国14ヶ所の運営を支援しています。

# 2023年度 第22期 事業報告 （2023年7月1日～2024年6月30日）

## この１年

ヴィエンチャンを歩くと、コロナウイルス感染症の影響で社会全体に広がっていた閉塞感が緩和し、活気が戻っていることを感じます。何年も工事が中断していた中国の資本によるビルは、工事が再開され、ホテルやショッピングセンターとして営業を開始しました。2021年12月に開通した中国南部の昆明とラオスのヴィエンチャンを結ぶ高速鉄道は、利用者が少ないだろうという見込みは外れ、ラオス人の利用も多く予約が取りにくいようです。他方、ドルとラオス通貨キープとの交換レートはこの一年で大幅に悪化し、輸入品の値段は跳ね上がっています。ガソリンは23,000kip（148円）/L、麺は30,000kip（194円）とインフレは止まりません。収入が増えない中、普通に暮らす人々はどのように生活しているのか想像できません。子どもたちへの影響も顕著で、政府統計によれば、中等学校への進学率は下がり、卒業できない子どもたちが小学校で23％、中等学校前期課程で37％にのぼっています。生活の厳しさを耳にすることも多く、社会の階層化はラオスでもますます進んでいると実感します。

## 重点的取り組み

今年度開始した第9次中期計画に基づいて、当会の運営と活動がすすめられました。コロナ前から続いていた厳しい財務状況の改善を図ることに注力し、「書き損じハガキ・未使用切手収集キャンペーン」の継続、会員の募集、広報強化によるご寄付の増額、さらに経費削減の継続などにより、財務状況を改善することが出来ました。他方、ラオス事務所体制の余裕が無く、国際協力NGOからの事業受託や図書販売などを計画通りにすすめることができませんでした。またタイの財団による奨学金事業受託が無かったことにより、ラオス事務所の資金調達はほとんど出来ませんでした。他方、日本人の駐在が復活したことで、東京事務所とラオス事務所の間の情報の共有や連携がすすみ、活動の効率化、安定につながりました。

事業実施では、「ラオス語図書の出版・図書室活動の整備」を基本として、各種事業を継続しました。ヴィエンチャン県では、県や郡教育局と契約を結んで協力体制を作り、「中等学校における学校図書室の役割拡充を通した教育改善事業」（JICA草の根技術協力事業）を実施しています。以前実施した日本NGO連携無償資金協力事業で研修を受けた教員が講師役を担うなど、これまでの成果が継承されています。しかし、先行事業と比較し、学校側の熱意に少し弱さが見られ、課題となっています。出版事業では、子どもたちへ届ける本の質を確かなものとするため、新たに出版する図書については、教育スポーツ省の機関から認証を得ることとしました。この認証により、学校での副読本としての利用も可能となります。

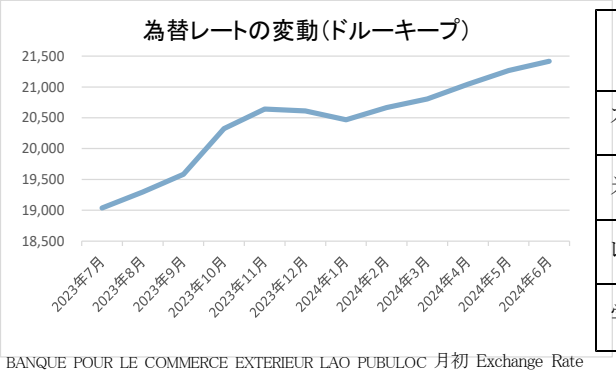
日本国内では、「ラオス語絵本プロジェクト」への企業の参加が増えています。絵本リストが更新され、新しい本をラオスに送ることができるようになっています。ただし、日本からの船便による輸送が再開されず、ラオスへ本を届けることに遅れが生じています。

今年度も東京事務所の体制を強化できなかったことから、支援者の皆さまに十分な対応が出来ない状況が続いており、課題となっています。

財務状況が少し改善したとはいえ、東京事務所とラオス事務所のスタッフ体制や資金調達力は充分とはいえない状況が続いています。引き続き改善するよう務めてまいります。

## ラオス経済データ

ラオス経済は悪化しています。内陸国であり、日常生活品を輸入に頼るラオスにとり、為替レート（米ドル→ラオスキープ）の悪化は、社会に大きな影響を与えます。ラオス事務所による物価調査をまとめました。円とラオスキープとのレートでは、キープ安となっていますが、一般の生活では物価高騰が進み、教育にも影響を与えています。




BANQUE POUR LE COMMERCE EXTERIEUR LAO PUBULOC 月初 Exchange Rate

| 換算レート | 2023年9月<br>1円＝133kip | 2024年9月<br>1円＝151kip |
|---|---|---|
| カオピヤック（米麺）1杯 | 20,000kip<br>（150円） | 30,000kip<br>（199円） |
| 米　1kg | 19,000kip<br>（143円） | 20,000kip<br>（132円） |
| レギュラーガソリン　1L | 23,000kip<br>（173円） | 23,000kip<br>（152円） |
| 学校で使うノート | 7500kip<br>（56円） | 8000kip<br>（53円） |

# 本に出会い、親しむ（読書推進活動）

ラオスでは図書館や書店が身近にない地域が多く、学校で読み書きを習っても、日常生活では文字にふれる機会がなく、新しい知識や技術を学ぶチャンスが限られてしまいます。そこで当会では、子ども達に本を届け、読書の楽しみを伝える活動をおこなってきました。ラオス国立図書館、教育スポーツ省と連携し、1992年から約3,000校に図書セットを配付し、356校に図書室を開設し、読書習慣の普及を図ってきました。

そして今、私達が取り組んでいるのは、子ども達の「もっと読みたい」「もっと学びたい」を支える活動が、ラオスの人々 自らにより担われ、広さと深さを持つようになることです。そのため当会は、学校教員、教育局、保護者、地域住民など子どもを取り巻く人々が本に関心をもてるよう、多方面から改善のためのアプローチをしています。

## 中等学校における学校図書室の役割拡充

ヴィエンチャン県サナカム郡とムーン郡の8校で、図書室を整備し、「県教育スポーツ局主導で、図書室活用を取り入れた中等学校教育改善の普及体制が構築される」ことを目標に2023年5月から3年間の事業として実施しています。

事業開始時には、県・郡教育スポーツ局（以下、教育局）を中心としたプロジェクトチームを立ち上げ、「オリエンテーション会議」を開催して、郡教育局、村教育開発委員会、学校、当会の4者でそれぞれの役割を明記した覚書を締結しました。また、郡ごとに「図書室運営ワークショップ」を開催し、図書室の担当教員と村教育開発委員会メンバーたちが、学校図書室の運営や計画づくり、更にSNSの活用について学びました。

各校では、3校で図書室を新たに開設、5校で既存図書室をリニューアルしました。担当教員やボランティアの生徒を対象に、図書室の役割と図書運営の実務を学ぶ基礎研修と、図書室サイン（案内・表示）の作り方や本の魅力を伝える展示を学ぶ応用研修を実施しました。さらに、各教科の先生を対象に、授業で図書を活用する研修をおこないました。

学校により違いがあるものの、先生方のモチベーションが上がらず、担当教員としての業務や活動の理解度が低いという課題が見られます。県教育スポーツ局及び郡教育局を中心としたプロジェクトチームで対応策を検討し、郡教育局メンバーが担当校を決め、積極的に関わる体制を作ったり、先行する事業で図書室を担当する中等学校の先生方を現場に招き、実践例を紹介してもらいました。

【JICA草の根技術協力事業（草の根パートナー型）】

## 小中学校での図書室の整備

新規開設は、前述の事業の3校に加えて、ヴィエンチャン県の2校の中等学校とカムワン県の1校の職業学校で図書室を開設しました。

既設の学校図書室の活動継続や再活性化のために、ヴィエンチャン県の3校の小学校で教員や図書ボランティアの生徒たちに、図書室運営の再研修を行いました。また、4県24校の図書室に、生徒の年齢にあわせた図書（1校あたり、小学校71冊、中等学校94冊）と図書貸し出しに使用する文具セットを提供しました。

【ご支援：福岡那の香ラインズクラブ　愛知県立常滑高等学校　国際協力団体BWP愛知　積水ハウスマッチングプログラム　ベルマーク教育助成財団】

## 事務所併設子ども図書室の活動

コロナ禍の中で閉鎖を余儀なくされた図書室は、子どもたちが快適に利用できるように、前年度、床の補修、照明の取り替えなど設備改修を行い、再開することができました。しかし、近隣の中等学校で、生徒たちの昼休み外出禁止が継続しており、来館できていません。また、年間を通じてスタッフの地方出張が増え、人手不足による閉館日が多くなってしまいました。今後、スタッフの配置や図書室でのイベントの実施などを工夫する必要があります。

# 本をつくる（出版プロジェクト）

子どもたちが本に親しむために、当会では1990年から絵本を中心にラオスでの出版を手がけてきました。作家がほとんどいない中、日本人やタイ人の専門家による絵本作りセミナーを開いたり、コンクールを通して若手作家を発掘・育成し、これまでに239点952,855冊の本や紙芝居を出版しています。

近年は消費社会化が進み、ファッションや流行情報を発信する雑誌も登場し、出版を取り巻く状況は急速に変化しつつあります。首都では図書を販売する場所が少しずつ増えていますが、一方で、子ども向けの書籍はバラエティが少なく、質の向上が課題です。私たちは「子どもの心に灯をともす」ような、質の高い本作りを目指しています。

## 人気の図書4点12, 000冊を出版

### 紙芝居『これはジャックのたてたいえ』

絵:やべみつのり　原詩:マザーグース　ラオス語訳:ドゥアンドゥアン　第2版 1,000部

イギリスの伝承童謡で押韻詩のマザーグースからの一話を、紙芝居作家のやべみつのりさんが作品化したものです。1983年に日本で出版され、ラオスでは2009年に当会が出版しました。リズミカルな言葉遊びが特徴で、1人で読むより、ラオス伝統文化の「スーン(詠唱)」と結びつけて利用されることが多い作品です。

【ご支援:クラウドファンディング2022、キヤノン株式会社、指定募金】

### ラオス語教本『リズムで学ぶラオス語』

文:マハー シラー ヴィラヴォン　絵:ヴォンサワン ラムロンスック　第4版　4,500部

ラオスの著名な文学者マハーシラー ヴィラヴォンによって編纂されたかつての小学校教科書に、多彩な絵を加えて再編集した作品です。ラオス語のしくみや発声を取り入れた詩で、自然とラオス語を学べるようになっています。今回は、教育スポーツ省の初・中等教育の教科書やカリキュラム開発を行っている機関「教育科学研究所(RIES)」からの認証登録を得て出版しました。これにより、より多くの教育現場で利用されることが期待されます。

【ご支援:特定非営利活動法人地球の木、リコー社会貢献クラブFreeWill　冬募金2023】

### 『ドデカあたまのおばけ』

文・絵:アンパントーン　ペップンポーン

第2版　4,500部

ラオス人若手作家育成のセミナーで作られた切り絵の絵本作品です。

夜更かししている子を見つけてはパクリパクリと食べてしまうおばけの話。ちょっぴり怖くてユーモラスな話は、ラオスの子どもたちが大好きな作品です。書き損じ葉書キャンペーンへのご協力により、印刷部数を増やして出版することができました。

【ご支援:書き損じハガキ切手収集キャンペーン2022-2023】

### 伝記『松下幸之助物語』

著者:渡邊祐介　ラオス語訳:チャンタソン インタヴォン　初版　2,000部

大同生命文化基金の翻訳出版事業に協力し、「ジャパニーズ・ミラーズ」シリーズの本作を翻訳出版しました。

両親を早く亡くした松下幸之助は、生涯病気に苦しみながらも、数々の逆境を乗り越え、大企業を作り上げました。その生き方を通して、人生を切り開いていく姿に共感してもらう趣旨で出版されました。

【ご支援:大同生命文化基金】

## 集い、表現し、学び合う（子どもセンター）

ラオスの学校は、座学による暗記が中心で、音楽、図工、体育はカリキュラムはあっても、指導ができる先生がいない、道具や材料がないといった理由で、子どもたちの情操面を伸ばすような活動をする機会がない状況がありました。そんな中、1994年に、当会などの協力によって、自己表現活動ができるラオス初の子ども施設として、情報文化省による「子ども文化センター」が開設されました。その後、活動は定着し、同様の施設が全都県に設置され広がりました。当会は、自立を促す方向から各センターの個別支援を減らしましたが、社会の変化にともない、子ども達のニーズも多様化することで、来館者が減少し、活動が停滞したり停止した館が増えています。

今年度は、活動中の3か所のセンターで活動状況のモニターを行いました。

## もっと学ぶことが出来るように（奨学金事業）

現在のラオスでは、日本の中学と高校にあたる中等学校に進学しても、経済的な事情で就学を継続することが困難な生徒が少なくありません。そんな生徒達が継続して学校に通い、夢を叶えられるように支援する「奨学金」です。

今期奨学金を給付した1名の奨学生は2024年6月に中等学校を卒業することがました。マンスリーサポーターのご協力によるALC奨学金事業を開始して6年が経ち、奨学生は18人となりました。このうち中等学校を卒業した者は16人となりました（2人は途中で転校や退学となりました）。

今期から8か所の中等学校で奨学金事業を始める計画でしたが、調整や準備に時間がかかり、奨学生の募集と選考、奨学金支給は次年度に持ち越しました。

奨学金の意義を確認するため、元奨学生たちにインタビューを行いました。技術専門学校や大学に進学した者、夢だった海外留学を果たした者、家族と一緒に生活するため養豚場や靴工場で働く者、進学資金を貯めるために首都ヴィエンチャンのレストランで働く者がいることが分かりました。ラオスの経済状況や家族の状況を考えると、奨学生でなければ、学業を途中であきらめなければならなかったと思われ、奨学金が人生を切り開く一助となっていることが分かります。

ラオスでは物価高騰が続いており、通学に必要な制服、学用品、交通費などの必要経費について調査し、奨学金の給付額を増額することにしました。また、奨学金を必要とする生徒が多いため、次年度は対象となる中等学校を11校に増やすとともに、30名の奨学生を募集することを決定しました。

【ご支援：マンスリーサポーター、指定寄付】

## ラオス訪問受入れ

2023年12月　五嶋みどりさん率いるミュージックシェアリング訪問調整　13年振りの訪問。ヴィエンチャン県中等学校4校の図書館を会場として、生徒たちに西欧音楽に触れる機会を提供してくれました。

2024年2月　（株）すかいらーくホールディングスの皆様の現地視察　小・中等学校の図書室を訪問し、子ども達や先生方へのインタビューの他、折り紙やパズルなどでの交流もおこないました。

上記以外も、JICA教師海外研修をはじめ、日本からラオスへの図書運搬協力などのご支援を多数いただきました。

# 日本での活動

日本では、活動を広く知らせ、ご支援、参加の呼びかけなどをおこなっています。また、どなたにも参加いただける、ラオスの文化や食を紹介するイベントや、学校に出向いて国際理解教育の参加型プログラムも実施しています。いずれのイベントもインターンやボランティアの仲間とともに作り上げています。

## 中学校・高等学校・大学で授業

ラオス、国際協力、あるいは当会の活動について理解を深めていただくため、今期は、学習院女子大学、愛知県立常滑高等学校、山形県米沢市立第六中学校への講師派遣や訪問受入れを行いました。オンラインで東京やラオスの事務所とつないで話や交流をすることは定着してきていますが、活動理解を深めることや支援を増やすためには、実施方法をさらに工夫する必要もあります。

## 参加型プログラム

**●ラオス語絵本プロジェクト**

今期の参加は、個人団体を合わせて46件で、合計1,100冊の絵本が作成されました。沖電気工業株式会社、株式会社ニコン、株式会社ジェーシービーでは社員に呼びかけるかたちで実施を継続。また、日本フィランソロピー協会のボランティアウェブを通して、個人の新規参加が増えています。

完成した絵本は、ラオスへの船便が休止しているため、一部を航空便でラオスに届けました。また、スタッフの出張時に持参するとともに、ラオスを訪問する支援者にご協力いただいて、ラオスに届けています。

懸案であった翻訳絵本リストの改訂については。「積水ハウスマッチングプログラム」のご支援により、新しく6作品をリストに追加することができました。次の翻訳候補絵本も準備されており、出版社への許可手続きをすすめています。

**●書き損じハガキ・未使用切手の収集**

今期もインターンの参加を得て、回収キャンペーンを実施しました。読売新聞、京都新聞、熊本日日新聞、中国新聞、山陰中央新報に記事が掲載され、2023年12月～2024年4月で427件、ハガキ14, 938枚、切手1,291,873円、総額1,987,147円相当の協力をいただきました。

## イベント開催・活動ミーティング

恒例のピーマイパーティは、これまで利用した会場が確保できず、活動報告会を兼ねたイベントとしました。第1部は、一時帰国中の渡邉淳子駐在員が現地での活動を報告、第2部は、手作りのラオス料理を楽しんでいただきました。

例年の東京「エスノースギャラリー」での展示販売会、京都恵文社ブックフェアでの展示委託販売、ラオスフェスティバルへの出展などを継続できました。
年間を通して個人や団体での物品販売協力が徐々に増えており、一定の収入に繋がっています。

# 組織の運営

## 1．全体運営

■理事会

理事8名と監事2名から構成される理事会が当会の運営を担っています。具体的には、理事会を四半期ごとに年4回開催して、中期計画の修正、事業計画案や予算案の審議と承認、事業報告案や決算報告案の審議と承認などを行いました。さらに、理事会では、財政状況及びプロジェクト実施状況の確認を行うとともに、運営の展望などを話し合いました。新たに2名の理事が加わり、これまで以上に理事会で積極的な意見交換が実現しています。

■総会

2023年度通常総会が、活動会員38名（書面表決者と委任状提出者含む。オンライン参加は9名）と陪席者5名の計43名の出席を得て、2023年9月16日開催されました。総会では、2022年度事業報告案及び決算報告案、理事の承認・監事の選任に関する事項が承認され、2023度の事業計画書及び予算と第9次中期計画が報告されました。総会後の懇親会では、代表のチャンタソンがラオス事情を報告し、参加者からの質問に答える時間を持ち、貴重な時間を過ごしました。

## 2．東京事務所

■体制

非専従事務局長常勤専従スタッフ1名という事務局体制となり、これにアドバイザー1名が加わり、3名で週1回の会議を開催し、業務の進捗確認や調整を行いました。また、2022年10月から2023年1月まで、業務委託契約により人材を確保し、冬募金キャンペーンなどの取材と各種広報記事の執筆を担ってもらいました。事業計画にあった業務委託契約による年間を通しての人材を確保は実現できませんでした。会計を担う専門的な経験のあるボランティアと、インターンの参加を得て、事務局体制を補完したものの、新たなスタッフの確保が喫緊の課題となっています。

■事業運営・組織運営

ラオス国内で実施する事業を円滑に実施するため、東京とラオスにある事務所間で連絡調整を密にしました。具体的には、日常的な連絡に加えて、両事務所の合同会議を定期的に開催し、事業の調整のみならず、当会の理念の確認や情報の共有に務めました。

制約がある体制の中でも、計画した事業を実施するとともに、新たな支援者（賛助会員、マンスリーサポーター、書き損じハガキ・未使用切手収集キャンペーンへの協力者、ラオス語絵本プロジェクトへの参加者）が増えて、組織運営の安定度を高められたことは特筆に値します。

■資金調達・広報

今年度も、次のような発信活動を継続しました。ホームページ記事発信（10回）、ブログ記事投稿（4回）、フェイスブック投稿（53回）、インスタグラム投稿（17件）、ツイッター投稿（10件）。紙媒体である「通信」は、年2回で合計2,500部を発行しました。また、年次報告書は2023年12月に発行し、ALC奨学金の支援者向けの「マンスリーサポーター通信」を2回発行しました。

これらに加えて、各種取り組み通して、新たな協力者を得ることができました。一時は深刻な財政状況に直面したものの、改善傾向を作り出すことができました。しかしながら、どのアプローチを強化し、工夫すべきかを引き続き意識する必要があると言えます。

## 3．ラオス事務所

■体制

2024年6月から総務や会計を担当するスタッフが加わり、現地スタッフは5名体制とすることができました。また、日本人駐在員1名がおり、事業実施と組織運営のサポートをしています。

■事業管理・組織運営

「中等学校における学校図書室の役割拡充を通した教育改善事業」の事業地であるヴィエンチャン県の教育スポーツ局や郡教育スポーツ局と連携し事業を実施するとともに、ラオス政府と締結した覚書に従い、報告書の提出や会議の開催など実行しました。

事務所内のミーティングは毎週開催され、各事業の進捗状況などの共有が行われています。月例報告書を作成して東京事務所に提出することや出退勤管理を徹底することにも難しさを抱えています。SNSを活用した情報発信には改善が見られます。

■資金調達

ラオスでの図書販売の売り上げは、約22万円で、例年の売上や今期の売上目標を大きく下回ってしまいました。事業の実施に追われ、戦略的に販売する活動ができなかったこと、ラオスの経済状況の悪化に伴いインフレの影響で物価高騰して生活が苦しくなっていることが理由と考えられます。また、国際機関や国際NGOなどからの受託事業も開拓することができませんでした。スタッフの時間が確保できなかったことに加えて、国際NGOなどの財政が厳しくなっていることも理由です。

■人材育成

2023年7月、スタッフ3名がタイ東北部ブンカン県で実施された地域の物語から絵本を制作する研修に参加しました。隣国とはいえ海外で行われた研修に参加することは良い学びで、良い動機づけにもなりました。

また、2024年3月から4月に実施した「授業における図書活用研修」では、図書館の専門家、下田尊久氏が、2か所は現地で、5か所はオンラインで参加しました。下田氏のアドバイスを受けながら、スタッフがファシリテーターとしてワークショップを実施し、経験を積みました。

■広報

ラオス国内での団体認知度を高めるため、ラオス事務所のフェイスブックページで、当会の活動や出版本の広報をしました。（前年より多い年間47回の投稿）

# 2023度 第22期 会計報告　(2023年7月1日～2024年6月30日)

## 活動計算書

| 科 目 | 金 額 |
|---|---|
| Ⅰ経常収益 | |
| 1.受取会費 | 1,064,000 |
| 2.受取寄付金 | 7,407,750 |
| 3.受取助成金等 | 3,108,548 |
| 4.事業収益 | 26,376,219 |
| 5.その他収益 | 800,415 |
| 経常収益計 | **38,756,932** |
| Ⅱ経常費用 | |
| 1.事業費 | |
| (1)人件費 | 7,225,890 |
| (2)その他経費 | 17,307,451 |
| 事業費計 | **24,533,341** |
| 2.管理費 | |
| (1)人件費 | 2,320,364 |
| (2)その他経費 | 2,529,590 |
| 管理費計 | **4,849,954** |
| 経常費用計 | **29,383,295** |
| 税引前当期正味財産増減額 | 9,373,637 |
| 法人税等 | 70,000 |
| 当期正味財産増減額 | 9,303,637 |
| 前期繰越正味財産額 | 10,254,337 |
| 次期繰越正味財産額 | 19,557,974 |

## 貸借対照表

| 科 目 | 金 額 |
|---|---|
| Ⅰ資産の部 | |
| 1.流動資産 | 21,795,381 |
| 資産合計 | 21,795,381 |
| Ⅱ負債の部 | |
| 1.流動負債 | 2,237,407 |
| 負債合計 | 2,237,407 |
| Ⅲ正味財産の部 | |
| 前期繰越正味財産 | 10,254,337 |
| 当期正味財産増減額 | 9,303,637 |
| 正味財産合計 | 19,557,974 |
| 負債及び正味財産合計 | 21,795,381 |

## 事業別損益の状況

| 科　目 | 経常収益計 | 経常費用計 |
|---|---|---|
| 出版事業 | 2,067,548 | 1,499,465 |
| 学校図書室の整備 *1 | 5,653,743 | 2,331,393 |
| 中等学校図書室拡充 | 23,307,000 | 18,269,684 |
| 子ども教育支援事業 | 441,000 | 145,221 |
| 交流事業　*2 | 1,456,611 | 1,308,757 |
| 収益事業 | 1,612,608 | 978,821 |
| 事業部門計 | **34,538,510** | **24,533,341** |
| 東京管理費 | 2,658,166 | 3,395,284 |
| ラオス管理費 | 1,729,251 | 1,623,665 |
| 管理部門計 | **4,387,417** | **5,018,949** |
| 合　計 | **38,925,927** | **29,552,290** |

*1 学校図書室の整備事業には、現地事務所併設図書館運営費用が含まれます。
*2 交流事業は、各種イベントや講演会費、ラオス語絵本プロジェクト、講師派遣・訪問受入、子どもセンター事業が含まれます。
*3 出版事業、学校図書室の整備、子ども教育支援事業の経常収益には、使途が制約された寄付金が含まれます。

監査報告書

特定非営利活動法人 ラオスのこども
代表　チャンタソン　インタヴォン　殿

2024年9月7日

特定非営利活動法人 ラオスのこども
監 事 脇田康司
監 事 矢崎芽生

私たちは、特定非営利活動法人ラオスのこども 第22期 2023年7月1日から2024年6月30日までの事業年度における、事業及び会計の監査を行い、次の通り報告する。

1.監査方法の概要
(1)会計監査について、帳簿ならびに関係書類の閲覧など、必要と思われる監査手続きを用いて、財務諸表ならびに収支計算書の正確性を検討した。
(2)業務監査について、理事会に出席し、理事及び事務局から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧等、必要と思われる監査手続きを用いて、業務の妥当性を検討した。
2.監査意見
(1)活動計算書、貸借対照表、財産目録は、会計帳簿の記載事項と一致し、法人の収支及び財産の状況を正しく示していると認める。
(2)業務報告書の内容は、真実であると認める。
(3)理事の職務執行に関する不正の行為または法令の定款に違反する重大な過失はないと認める。

以上

2024年9月2日に脇田康司監事(弁護士)、矢崎芽生監事(公認会計士)により、監査がおこなわれ、上記の通り、監査報告書を受け取りました。

財務改善のため、資金調達に組織として集中的に取り組み、ある程度の成果を上げることが出来ました。特に、会費収入や寄附金収入を増やすことができました。また、昨年に続き、書き損じキャンペーンがメディアで取り上げられたことで、新しい方々への接点ができ、支援者となってくださる方もいます。一方で、ラオスでの図書販売や、日本での物販イベントの収入は減っています。インターンの協力もあり、各種発信活動もおこなうことが出来ましたが、限られた体制で、どのアプローチを強化、工夫すべきかを引き続き意識する必要があります。

NPO法人会計基準に沿った会計システムで会計処理をおこなっています。より詳しい資料は、当会ホームページにてご覧いただけます。

# 2024年度 第23期 事業計画　（2024年7月1日～2025年6月30日）

## □方向性 全体方針

2024度も、第9次中期計画に基づき運営をおこないます。この中期計画では、これまでの事業成果を継承しつつ事業を発展させ、運営面では資金調達力を高め、組織の世代交代に取り組み、ラオス事務所のマネージメント能力を高めることを骨格に構成されています。前年度も、この計画に基づき運営を行い、事業の安定した継続、厳しい財務状況の若干の改善など、ある程度の成果を得ることができました。とはいえ、今後の事業継続のための人材補強、公的資金に頼らない組織運営の実現など、いまだ達成できていない課題が残っています。2024年度は、第9次中期計画の中間の年です。これらの課題を踏まえた上で、ラオスの子どもたちのために何が必要か、私たちは何が出来るか、そのためにはどのような組織が必要か常に問いかけ、改善のための道筋を明確化しつつ、一歩一歩進むことが求められています。

組織運営においては、活動を支援してくださる支援者を拡大するための努力、活動を広く知っていただくための広報活動、さらに各種イベントの実施や、書き損じハガキ・未使用切手収集キャンペーンなどに継続して取り組みます。ラオス事務所においても、SNSを通じた認知度を高めるための活動紹介と資金調達に取り組みます。

継続中の「中等学校における学校図書室の役割拡充を通した教育改善事業」での新しい取り組みとして、地域学習をおこない、授業での図書室活用を広げる試みがあります。これは地域に伝承されている文化を採取、記録し、図書館で活用することが出来るようにするもので、この経験を定着させることで、図書室に地域の情報センター機能を加える野心的な試みです。出版では、ラオスの子どもたちが多様で質の高い本に触れられるように、ラオス語図書の出版を継続します。また、新たな図書はラオス政府の教育科学研究所(RIES)の認証を得ることで、学校で幅広く利用できるようにします。

ラオス社会はコロナ禍以降、経済的に疲弊し格差が広がっています。その対応として、現在実施しているヴィエンチャン県での中等学校生徒を対象とした奨学金事業を拡充し強化します。さらに、日本語図書にラオス語の翻訳を貼りラオスに送る「ラオス語絵本プロジェクト」では、更新した絵本リストを生かし、さらに参加を呼びかけ、活動支援者になっていただくよう、働きかけを続けます。

今期の運営責任を持つ理事・監事は以下の8名です。（五十音順）

理事　・岡田 龍之介　・塩谷 光　・新藤 雅章　・チャンタソン インタヴォン
　　・西村 恵子　・野口 朝夫　・森 千也　・森 透
監事　・矢崎 芽生　・脇田 康司

## ラオスでのプロジェクト

### Ⅰ．子どもたちの読書環境を整える「読書推進活動」

●「中等学校における学校図書室の役割拡充を通した教育改善事業」

2年目となる2024年度は、以下の活動を実施します

・オリエンテーション会議の実施
・各学校の状況に合わせた図書の補充と図書室の整備
・「図書活用アイデアシート」の蓄積
・地域学習を実施し、授業での図書室活用を広げる
・授業における図書活用事例集作成のための会議や研究授業を実施する
・「学校図書室交流大会」を各郡で実施
・3か月に一度の割合でモニタリングを実施

●学校図書室の整備

4校の小中学校で空き教室に本と本棚を提供し、図書室運営に関する教員研修をおこない、学校に図書室を整備することで、子どもたちが日常的に図書に接する機会をつくる活動を継続実施します。また、既設図書室の活動継続や再活性化をねらいとして、状況調査をおこない、必要なフォローアップを3から6校でおこないます。さらに、開設後3年以内の23校の図書室に補充図書を提供します。

●ALC図書室（ラオス事務所併設図書室）活動

ラオス事務所スタッフが、学校図書室運営を適切にサポートできるように、併設図書室で「図書室配架・展示」を実践します。また、併設図書室を校外学習として利用したり、読書推進活動を体験してもらう場として利用することを、私立学校を中心に働きかけます。さらに、2024年12月に子ども向けのイベントを実施し、 ALC図書室の周知をはかります

### Ⅱ．子どもたちに良質な本を提供する「出版活動」

2024度は、準備を進めてきた再版本『カンパーとピーノイ』、『カンパーとナンガー』、新刊本『ぐりとぐら』（なかがわりえこ作　おおむらゆりこ絵　福音館書店）ラオス語版。ラオスの蝶を題材にした絵本の合計4タイトルを出版します。また、織物を扱った本の企画をすすめます。

### Ⅲ.子どもたちの居場所「子どもセンター運営支援」

支援活動は休止とするものの、活動状況を確認して、必要があればセンター図書室へ図書の補充をおこないます。

### Ⅳ.子ども教育支援事業

中等学校の生徒向けのALC奨学金支給を継続して実施します。これまで実施してきたヴィエンチャン県の中等学校3校に加え、「中等学校における学校図書室の役割拡充を通した教育改善事業」の対象校8校を含めて実施します。1校あたり3名程度、合計28名～30名の生徒に対して奨学金を給付します。

## 日本での活動

組織としてこれまで掲げてきた理念と使命を継承し、NGOの倫理を柱として運営の質をより高める努力を継続します。認定NPOの更新手続を完了して、税制上の優遇措置が継続されることにより、資金調達に力を注ぎます。具体的には、他団体が行うイベントへの参加、企業との連携、学校などでの「出前講座」、「ラオス語絵本プ ロジェクト」などを継続実施します。また、「書き損じハガキ収集キャ ンペーン」を引き続き実施し、個人協力者に加えて、企業・学校 ・団体を開拓します。

## 組織の運営

国内では、目的、対象と成果を明確にした多様な広報活動を強化することで、より多くの方々に活動を理解いただき、資金調達に結びつけていきます。

ラオスでは、スタッフとNGO活動の理念の共有化をさらに深め、東京事務所と協力して事業を実施します。読書推進活動や図書出版の分野において、国際協力機関との連携を強め、事業受託を開拓します。また、次の活動の担い手となるよう、人材の育成に努めます。

## 2024年度 第23期 予算
（2024年7月1日～2025年6月30日）

| 科 目 | 金 額 |
|---|---|
| Ⅰ経常収益 | |
| 1.受取会費 | 1,170,000 |
| 2.受取寄付金 | 6,550,000 |
| 3.受取助成金等 | 2,300,000 |
| 4.事業収益 | 23,800,000 |
| 経常収益計 | **33,820,000** |
| Ⅱ経常費用 | |
| 1.事業費 | |
| (1)人件費 | 8,700,000 |
| (2)その他経費 | 17,688,000 |
| 事業費計 | **26,388,000** |
| 2.管理費 | |
| (1)人件費 | 2,480,000 |
| (2)その他経費 | 3,592,000 |
| 管理費計 | **6,072,000** |
| 経常費用計 | **32,460,000** |
| 法人税等 | 70,000 |
| 当期正味財産増減額 | 1,290,000 |
| 前期繰越正味財産額 | 19,557,974 |
| 次期繰越正味財産額 | 20,847,974 |